

食べ物の安全を確かめて、 人々の健やかな暮らしをサポート。



米村 未奈子

MINAKO YONEMURA

赴任地



赴任地での職種(活動分野)
食品衛生

大阪府枚方市

枚方市保健所 食品衛生監視員 / 薬剤師

大学卒業後、食品メーカーに就職。翌年、公務員試験に合格し、保健所にて食品衛生監視員として勤務を始める。およそ5年、食の安全を守る。検査を積み重ねた後、ボランティア活動にもともと興味があったこともあり、JICA海外協力隊に応募。現職派遣制度を利用して参加する。

小学生から今もずっと、誰かのために役立ちたい思いで—。

約40万人が住む中核市・枚方の保健所で、米村さんが従事するのは、食品衛生や感染症、環境衛生に関する微生物や食品添加物の検査業務だ。管轄区域で提供されたり、販売されている食品に、害を及ぼす微生物はいないか、表示にない添加物が入っていないかなどを調べている。

小学生の頃からガールスカウトでボランティア活動をしていた米村さん。そこで、物資に恵まれない国の子どもに文房具を送るピースバック

プロジェクトに参加。文具を受け取った子どもからお礼の手紙があり、また誰かの役に立ちたいと思うようになる。

高校時代の友人がJICA海外協力隊に参加したことをきっかけに、自分の職種を活かしてまたボランティア活動を再開してみたいと思い、エクアドルへ。国や地域を問わず、誰かのために、身体の源である食の安全を確保するサポートをずっと続けている。

理想と現実の乖離にくじけず、 一歩ずつ前に進むことを決めた。

米村さんの配属先はポリバル県庁の食品検査センター。JICAへの要請は公認の食品検査センターとして認証を取得することだったが、予算や人員体制などから考えると非現実的な状況。そこで、米村さんは検査センターの基礎である衛生面での管理だけでもしっかりしたいと日本の「5S*活動」の概念を伝えようと考えた。そこで直面した問題が、職場で唯一の同僚との関係だ。

「2人で協力して活動を前進させたいと考えたのですが、やる気がなく、こちらが提案しても全然受け入れてもらえなかった。そこで、まずは検査センター内部の写真をたくさん撮り、どう変えた方がいいと思うかを紙に書いてもらって、現状の問題点を共有するところから始めました」。すると、次第に米村さんの熱意が伝わり、一緒に改善点を考えてくれるようになった。

*「整理」「整頓」「清掃」「しつけ」の頭文字のSをとったもの



ラジオ局で食品衛生について話させてもらった



ポリバル県庁食品検査センターにて同僚と水の微生物検査



県庁に飾るクリスマス用の家や人形を作るため、木などの材料を集めに

自ら積極的に動いていくことで、 出会いと関係が生まれていく。

「折角なので、検査センターの活動以外でも何かできることをしたかった」と米村さん。現地で頻りに食中毒が起きていることを知り、地域住民の食品衛生意識を改善したいと、啓発活動の場を設けてもらった。食品市場の関係者は、アジア人が頑張ってスペイン語で説明しているということで、興味深く米村さんの話を聞いてくれた。

また、カルナバル(謝肉祭)のパレードに、職場のチームとして参加したこともよい思い出だ。1カ月前から準備やダンスの練習をして本番を迎えたとき、仲間になれたと喜びでいっぱいになった。

当たり前と流さずに 取り組む姿勢の大切さに気付いた。

エクアドルで少数派のアジア人として生活し、当たり前と思っていたことが当たり前ではないことに気付いた。向こうでは時間通りに来ない。謝らない。仕事より家族、楽しいことが優先される。しかし、帰国後、「日本人は(仕事に)時間通りに来るけど、帰る時間を守らないでしょ」と言われたことを思い出し、日本の当然のような残業について考えさせられている。現在は、常識と知っていることが、自分の周りだけの常識ではないかと疑うことを忘れず、まずはいろんな考え方を受け入れるようになった。固定概念にとらわれず、一つひとつの検査を丁寧に、また周囲の意見に耳を傾けるなど、復帰した仕事に活かしている。



食中毒菌などの微生物や表示のない添加物が入っていないかを検査



受動的な検査仕事から、予防という 自発的な啓発活動までカバーしたい。

米村さんの仕事は、生活していくうえで切り離せない食品や感染症に対する衛生検査。現在*は新型コロナウイルス対策一色の保健所だが、コロナが収束しても、地域住民の健康を守るために必要であり続ける業務だ。自身が行っている衛生検査が少しでも衛生面の改善の一助になることができればと真摯に取り組んでいる。

また、既製や調理済み食品で起こった食中毒に対する検査はもちろん、苦しむ人がいないようにまずは予防を重視し、地域の衛生意識を向上させることで食中毒や感染症が起こらない環境づくりに注力したいと考えている。

*2021年1月取材時

上司に
聞く!



枚方市保健所 所長 白井 千香さん

自らが考え工夫し、現地スタッフと作業環境や効率を改善する支援をしてきただけに、ちょっとやそっとの困難には屈しない内面のたくましさが増したと思います。信念を通しつつ、臨機応変に周囲の状況を把握しながら、次に何をすべきかを明確にする姿勢は他の職員も見習うべきところだと感じています。

JICA海外協力隊を目指すみなさんへ 一歩踏み出すことで、かけがえのない出会いがありました。

活動はもちろん、生活そのものを通して、日本では得られなかった喜びや楽しさ、参加しなければ関わりのなかった人との出会いなど、これからの人生でプラスになる経験をしました。エクアドルの人々に日本人の考え方も知ってもらえたと思いますし、すべての出会いに意味がありました。